

『向島の豊かな自然と生きものたち』

第33回 オサムシとマイマイカブリ

「オサムシ」「マイマイカブリ」と聞いて、その名前の虫の姿を想像できるかな？

「オサムシ」を漢字で書くと「走行虫」、「マイマイカブリ」は「蝸牛被」と書きます。

「オサムシ」は「治虫」と表記されることもあり、これは漫画家の「手塚治虫」さんのペンネームです。

手塚治虫さんは、大の虫好きとして知られています。

戦争中に近所で昆虫採集をしていた兵隊さんに注意されたこともある。と著書に記されているほど虫好きな少年だったようで、自らの作家名にわざわざ「虫」の字を使っておられます。

一方、マイマイカブリの「マイマイ」は「カタツムリ(蝸牛)」のことであり、長い首のよう部分(頭部・胸部)をカタツムリの殻の中に突っ込んでカタツムリを食べている様子が、名前の由来だそうです。

殻の中に入りやすいように、首に見える部分が長くなったのでしょうか？

野外採集している時にそういった状態は見たことがなく、飼育中にも残念ながら見ることができていません。

オサムシやマイマイカブリは、山間の道路わきの側溝を歩いているのを見つけることが多かったです。

今回は、そんなオサムシの仲間を見てください。住宅地よりも畑や田んぼ・山地に多く、その気になれば意外と見つけやすい虫だと思います。

オサムシの標本の中には、私が昆虫採集に自覚めた頃に作った「標本第1号虫」として大事にしているオサムシもいます。

昆虫採集は小学生の頃に何度もやっていましたが、その頃に作った標本は残っておらず、大人になって再挑戦した時からは、採集した虫たちを大切に標本として保管しています。

自分自身で採集したり飼育した虫たちがその命を終えた時、土に戻す事も良いことだと思いますが、思い出として標本にしてみるのも自然科学に親しむ良いきっかけになると思います。